

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2012年9月1日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

第5号

新たな連携のかたちを求めて

～事業推進委員会・登録団体連絡会議を開催して～

6月8日に事業推進委員会がおこなわれました。この委員会は、ネットワークサロン事業の向上のために、委員から意見や提案を頂く場です。委員会は、登録団体の代表と学識経験者、行政（所管の地域福祉課）担当者と法人施設関係者で構成されています。委員会からの意見としては、「サロン事業が1年契約なので専門のコーディネーターを雇用することができないため多年度契約にしてほしい」、「障害者の社会参加につながるような企画を考えてほしい」等の活発な意見が出されました。また、行政からは、地域が活気づくために登録団体に協力して頂けないかとの提案がありました。

7月31日には、登録団体連絡会議がおこなわれ、38団体のうち、24団体が参加しました。登録団体からの意見として、施設全体が有効に活用されるための意見や、登録団体間の連絡網を確立してほしい等の意見がありました。また、ネットワークサロンからは、事業推進委員会での行政の提案を受けて、登録団体の特性を活かしながら地域に貢献できる企画を多目的コーナー等で出来ないかとの提案をしました。

事業推進委員会も登録団体連絡会議も多数の方が参加し、具体的な意見交換をおこなえる場になっています。このような多くの方々の意見によって、ネットワークサロン事業は運営されています。今後も開催していきます。

(前川 修)



報告①

ジェンベワークショップ開催

～音楽を通して西アフリカを知る～



4月におこなわれた東九条春まつり、ドウニヤカンのジェンベ（西アフリカの伝統打楽器）のLIVEをご覧になりましたか？その時の子どもたちのキラキラした目が忘れられず、ネットワークサロンの第1回特別企画に、再び、ドウニヤカンのみなさん

に来て頂きました。今回は演奏だけでなく、西アフリカで過ごされた時の写真を通して、生活や文化などの話をしてくださいました。そして、ダンスとジェンベの体験も。参加者のほとんどが子どもたちだったのですが、子どもたちに音楽の楽しさを伝えようとするドウニヤカンのみなさんのあたたかい雰囲気の中で、最後は叩いて踊って大盛り上がりの会になりました。障害をもつ子どもたちが、ジェンベのリズムに合わせて身体を揺らす姿が、とても印象的でした。（宇山世理子）

2012年度第2回世界の料理教室

インドネシア篇「ナシゴレン」

報告②

第2回世界の料理教室では、インドネシア料理のナシゴレンを作りました。講師はヘリーワトノさん。ニンニクの効いたチャーハンのように、驚いたのはニンニク一房をすりつぶすのに10cmぐらいの大きさの石の器とすりこぎを使ったことです。時間をかけてすりつぶすのを見て、まるで石器時代のように。インドネシアの人たちの時間にとらわれない生活を感じました。つけ合わせに鳥のケチャを作ったのですが、インドネシアの甘くてドロツとしたソースに（見かけはみたらし団子のタレのよう）、砂糖が山盛り入り、参



加者、「本当に砂糖でいいの!!」とびっくり。甘くて食べられないのではと思ったのですが、できあがり全然甘すぎず、おいしくいただきました。地域住民や市民のみなさんと楽しく交流することができました。（武市知代）

東九条マダン20周年を迎えて

今年で、東九条マダンも第20回を迎えます。マダンとは、韓国朝鮮語で「ひろば」という意味です。この広場に年代、国籍を越えそれぞれの立場の方々がたくさん集います。在日韓国朝鮮人が多く住む東九条で、日本人と共に地域のまつりをしようとはじまりました。日頃、話す機会がない近所の人、いつも怒鳴られる恐いおっちゃん。マダンでは気軽に話ができる場所です。楽器が好きな人はチャンゴを叩いたり、のど自慢で歌を歌ったり、絵が好きな人は会場で飾られる絵を書く等、いろいろな体験が出来ます。当日は、たくさんの出店が並びいろんな国の食べ物や物販店があり、また仮面に絵をつけるなど遊び体験コーナーもあります。

この日をきっかけに、民族の事や各個人の立場を知ってもらい、地域に根差した「マダン」であり、コミュニケーションの場となってほしいと願います。年に一回ですが、みなさんが本当に楽しみにしておられます。今回は20回と記念のマダンなので過去にも参加して頂いた、レゲエ界女性ボーカリストナンバーワンの「PUSHIM(プシン)」さんが、賛助出演されます。本当に楽しい一日になりそうです。

最後に今後の日程です。

- ・東九条マダン本番11月3日(土・祝)、雨天時4日(日)、開催場所：元・陶化小学校。
- ・大人チャンゴ等打楽器練習日、9月以降毎週月曜日18:30~20:30。元崇仁小学校体育館。但し祝日は休み。同じく、子供チャンゴとソゴの練習、毎週火曜日17:00~18:00。希望の家児童館。
- ・美術班(当日の美術品作成)本番までの毎週日曜日14:00~18:30。元崇仁小学校一階教室または文庫マダンセンター。
- ・マダン劇(360°観客席の演劇)9月以降毎週木曜日20:30~22:00。

次回実行委員会は、9月29日(土)19時から文庫マダンセンターにて。

みなさんのやりたい事を見つけて是非参加してください。いずれも誰でも参加可能で無料です。お問い合わせは、東九条マダン事務局075-661-3264まで。

(東九条マダン実行委員長 陳 太 一)



(シリーズ) 登録団体との連携・紹介 (5)

オモニハッキョ・ケナリ



オモニハッキョ・ケナリ（以下、ケナリ）の前身は「九条オモニハッキョ」です。1976年、東岩本町に再建された在日大韓キリスト教京都南部教会の青年たちが真っ先に取り組んだのが「九条オモニハッキョ」でした。1世のオモニたちは日本語の読み書きが出来ないため、数々の差別と苦難を強いられてこられました。

教会青年の呼びかけに、地域で活動する日本の青年や学生たちが多く参加し、1978年4月に九条オモニハッキョが開校されました。オモニたちの熱意によって3年後には在籍数100名以上、ボランティアの青年たち50名近くの大所帯になり、会場は熱気に溢れました。その後、1995年南部教会は現在の北松ノ木町に移転し、オモニたちの高齢化などにより2003年3月閉校を余儀なくされました。

私のオモニもこのハッキョで学び、生まれて初めて日本語の読み書きが出来るようになりました。オモニハッキョ閉校の翌月に私のオモニは亡くなり、私は改めてオモニハッキョに対する感謝の想いが胸にこみ上げてきました。ちょうどそのような時、須原通を歩いていると、オモニハッキョで学ばれていた何人かのオモニに声を掛けられ、私はオモニハッキョ再開を約束しました。須原通の高瀬川沿いには黄色い連翹（れんぎょう）の花が咲いていました。そこで連翹の朝鮮語「ケナリ」という名前を付け、2003年5月ケナリが開校しました。ケナリは毎週月曜日、午後1時から3時、マダンセンターを会場に日本語の読み書きを、80代のハルモニ（おばあさん）たちや、91歳のハラボジ（おじいさん）と一緒に勉強しています。筆舌に尽くせない多くの苦難を歩んでこられた在日1世・2世の方たちから、私たちスタッフは多くのことを学んでいます。是非、若い人たちもスタッフとして参加し、一緒に学んでください。

（ケナリ代表 朴実）

東九条でのボランティア体験を通して

「希望の家がアツイ」。在日コリアンについて調べて半年ほどたった頃、方々からそんな声を聞く機会がふえた。フットワークが重い私にしてはめずらしく、すぐに訪問のアポをとった。初めての訪問にもかかわらず、職員のみなさんは親身になって私の話しに耳を傾けてくださり、まもなくボランティアとして受け入れて頂くことが決まった。

最初は希望の家カトリック保育園を訪問し、その後、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンに相談し、私の関心に沿って、適切な関わりの場を紹介して頂いた。今は週に一度、「にこにこや」と希望の家児童館に通う。「練炭を高瀬川に捨てました事件（時効）」や「親類を探して全国行脚」など、お年寄りの「若かりし頃のキラキラした話」をお茶を飲みながら聞いたり、子どもたちとペットボトルや紙コップで工作に夢中になる。ゆったりとしながらも刺激に満ちている。そんな贅沢な時間を過ごせるのが、週に一度のボランティアの日である。

時々、私がやってることって「ボランティア＝自発的」という意味とは裏腹で、「ボランティアさせてもらってる」という不思議な表現が妙にしっくりくる。ボランティアをはじめて3カ月足らずだが、「希望の家」に集う人々のゆるやかなつながりが心地いいと感じ始めている。（次ページに続く）



6月9日、希望の家カトリック保育園子育て講演会「多文化共生保育～つながって10年」の一コマ
左から3番目、チャンゴを叩く康さん

東九条には様々な背景をもった人が住んでいる。それぞれ異なる課題や目的をもっている。みんながそれぞれの方向に歩みを進めるために、集いつながる場所。私にとって希望の家はそんなイメージだ。一つの考えをもとにみんなが同じ方向を向くのもいいけれど、こんなつながり方があっていいな。私も自分の道を行くために、ここに身を寄せている一人だなど、子どもたちのケンカの声やBGMに感慨にふけるのだった。

(京都大学大学院 康陽 球)

エル・システム音楽コンサート ～IN 崇仁・東九条～



7月21日にデイサービスうるおいと東九条のぞみ園でエル・システムの子どもたちによる慰問コンサートを行いました。ギターを始めたばかりの土井姉妹の東北地方の民謡でスタート、東九条教室のみんなががんばった間奏曲は、今までで一番よかったです。美山のお友達も応援にかけつけてくれ、「故郷」と「竹田の子守唄」を弾いてくれました。小さい子が一生懸命弾く姿はかわいらしかったです。「故郷」の演奏の時は涙ぐむお年寄りもおられ、よい交流ができました。地域を励まし、地域に育ててもらおうエル・システム。次は冬休み頃、もっとうまくなった自分達を見てもらおうと、話しています。移動の途中に「牛筋うどん」の看板を目ざとくみつけた美山のお母さん達、コンサートが終わると早速お買い物タイム。豚足やキムチを買って、しっかり多文化交流を楽しんでいました。

(エル・システム無償の音楽教室 渡部 康子)

〈ネットワークサロンへのメッセージ〉

聞き取り調査に参加して

学生を連れて東九条を歩いていたところを、希望の家の所長になった前川修さんと遭遇、「聞き取り調査するから手伝ってよ」とのこと。『近江八幡の部落史』の編纂で前川さんに世話になった私としては断るわけもなく、ネットワークサロンの「聞き取り調査部会」に2012年3月27日の会議から参加することになった。



(聞き取り調査の風景)

聞き取り調査部会は、それまでばらばらに調査を進めていた「オモニハッキョ・ケナリ」「京都コリアン生活センターエルファ」「東九条まちづくりサポートセンター・まめもやし」「希望の家」などの団体や、面白そうだなと参加した私のような個人が、これからとりあえず一年間聞き取り調査をして、一冊の冊子にまとめてみようと思集まっている。この調査は、①東九条の歴史の掘り起こし、②在日一世の生活史、③次世代に伝えたい思いを明らかにすることをめざしているが、それぞれの団体のスタンスを大切にしようということで実証主義重視の人やライフヒストリー的語りを重視する人などいろいろである。

そうしたネットワークサロンならではの多様な聞き取り調査を持ち寄ることで、聞き取りの内容や方法が深まっていくことが今後の課題になっている。聞き取り調査はいずれにせよ、聞く人と聞かれる人との間の信頼をもとにした相互行為である。若い人も巻き込んで実り多い調査活動を続けていきたいと妄想している今日この頃である。

(京都教育大学教授 伊藤 悦子)

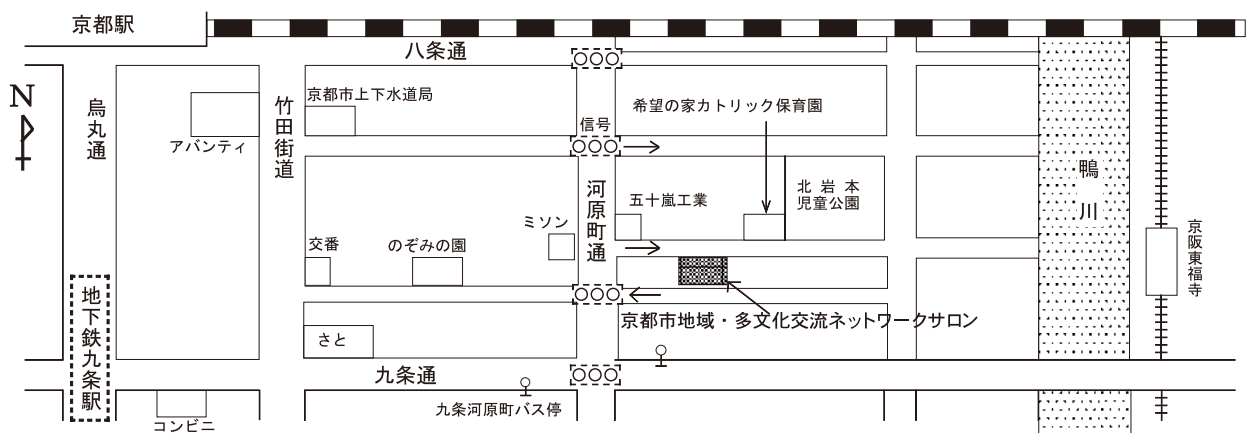
凌風学園 多文化学習授業



7月9日、凌風学園の生徒、約40人が多文化学習で、ネットワークサロンを訪問しました。この多文化学習は、地域学習の一環としておこなわれたものです。ネットワークサロンとしては、東九条地域で長年に亘り活動をしている東九条マダン

に講師派遣の依頼をおこない、朴実さんに講師をしていただきました。凌風学園は、今年4月から、山王・陶化・東和の3小学校と陶化中学が合併し、小中一貫校として再スタートしたものです。このため、山王小学校、陶化中学出身である朴実さんにとっては、凌風学園の生徒は後輩になります。最初、朴実さんは、子どもの頃のことや東九条の中に在日コリアンを中心に多くの外国籍市民が生活していることを説明されました。また、生徒の中にも、多くの在日コリアンや多様なルーツがあることも説明されました。その後、韓国朝鮮の民族楽器であるチャンゴやケンガリの実演をおこない、生徒はその音色に聴き入っていました。1時間の短い多文化学習でしたが大変内容の充実したものとなりました。

ネットワークサロンでは、このような東九条マダン等の登録団体と連携することで、積極的に地域活性に貢献していきたいと考えています。(前川 修)



- 所在地 〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町31 (京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内)
- TEL 075-671-0108 □FAX 075-691-7471 □E-Mail salon_kyoto@ck9.so-net.ne.jp
- 開館時間 9時～17時 □WEBサイト http://www016.upp.so-net.ne.jp/k_salon/
- アクセス 京都駅・京阪東福寺駅・地下鉄九条駅 徒歩10分 市バス42・202・207・208 九条河原町